

農業



平成25年8月号

会誌 No. 1575

目次

巻頭言

我が国の農村の未来図……………太田 信介 3

論壇

ランプーン白牛と生物多様性……………林 良博 4

中央農事講演会

人口減少時代の美しいむらづくりと個性のあるまちづくり…藻谷 浩介 6

農業技術開発研究会

農業技術開発機関のミッションと研究評価・人材育成（Ⅱ）…………… 11

－堀江武農研機構理事長講演後の質疑，意見交換－

FOEAS をめぐって

課題解決型の認識の仕方

基盤研究，素材技術開発指向の理由

基盤研究から課題解決型への回路

農業イノベーションの現状

危機対応研究

アグロノミストの育成方法

農学固有の領域

米の独往性を越える研究

これからの取組への期待

表彰農家訪問

高齢者の生き甲斐を和牛繁殖に見いだす果敢な挑戦……………横内 隼生 29
－愛媛県西予市に井関村男さんを訪ねて－

農業・農村の現場から

農園芸活動に期待する医療的・福祉的効果……………中本 英里 37
－ひきこもり者を対象とした農園芸活動の事例－

世界の農業は今

フランスの農地をめぐる制度と市場……………須田 文明 42

統計情報…………… 48

農政情報…………… 49

大日本農会だより…………… 50

表紙写真説明

おおいだに
大井谷の棚田（かのあし よしか ちよう
島根県鹿足郡吉賀町 柿木村大井谷）

山陰道の国道9号線で島根県の益田から中国山地内部に向かい、津和野から山口県の岩国に向かう国道187号線に入り、しばらくゆくと吉賀町柿木村に大井谷はある。大井谷の棚田は、古文書「吉賀記」にも記され、約600年前の戦国時代のころ、大内氏に仕えていた三浦重経の一族が開拓したと記されている。現在では、「日本の棚田百選」に選ばれている。急勾配であるため、自然石を用いた野積工法により畦畔が築造されている。棚田の数は、かつては1,000枚以上あったといわれ、現在は、約630枚、6 haが、耕作されている。

所在地は、柿木村となっているが、平成17年10月、柿木村と六日市町が合併して、吉賀町となった。吉賀という名称は、柿木村と六日市町を併せた古い地名で、この辺りを総称するものであった。

大井谷地区では、棚田を活かした地域づくりを行うため「助はんどうの会」を組織し、棚田米の販売。棚田のオーナー制度を導入、秋には、「大井谷棚田祭り」を開催して棚田保全の活動が続いている。
(写真提供：尾関秀樹氏)